

# 令和3年度事業計画

## I 基本方針

人口減少、少子高齢化が進行する我が国は、高齢化率が既に28.7%に達しており、令和7年に30%、令和47年には40%に近づくことが見込まれています。これに伴う労働力人口の減少が懸念される中、社会参加意欲のある健康な高齢者が長年培ってきた知識、経験及び能力等を生かし、活躍し続けることができるシルバー人材センターへの社会的期待は大きくなっています。

こうした期待に応えるべく、当センターにおいても効果的な広報活動を行い、仕事の受注拡大と会員の増強を図りながら、受注額と就業率の向上に繋げてまいります。

昨年度は、就業中の事故が減らず重篤化する傾向にありました。事故を減らすためには会員一人ひとりが常に安全を最優先に心掛け、「安全のしおり」に従って事故の未然防止に努める必要がありますので、この課題に対しては安全委員会を中心に組織をあげて取り組んでまいります。

また、新型コロナウイルス感染症は、今年度も契約実績や新規入会者数、あるいは各種研修会やイベントの開催方法等に少なからぬ影響を及ぼす懸念はありますが、それぞれの事業について最小の経費で最大の効果を発揮できるよう「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもと、組織一丸となり推進してまいりますので、引き続き会員皆様のご協力をお願いいたします。

今年度、当センターは設立20周年を迎えますが、これまでの歴史を踏まえ、これからも“みんなの笑顔のために”魅力あるセンターを目指し、事業を展開してまいります。

### 【事業計画】

- 1 会員の増強
- 2 就業の場の確保
- 3 安全・適正就業対策の推進
- 4 運営体制の強化・充実

### 【第2次中期計画における目標数値】

会員数	就業率	契約件数	契約金額	
			受託事業	派遣事業
4,860人	80.5%	17,600件	受託事業	1,600,300千円
			派遣事業	104,700千円
			合計	1,705,000千円

注：「就業率」と「契約件数」の数値は、受託事業と派遣事業の合計数値です。

※この事業計画は、令和3年3月25日の理事会にて決定したものです。

## II 事業実施計画

### 1 会員の増強

**目標会員数 4,860 人達成のため、効果的な広報活動とともに、多くの会員のセンター事業への参画で、魅力的なセンターづくりを進め、会員増強を目指します。**

- (1) 会員（仲間）を増やすことは、センター事業の活性化に不可欠であることを役員・会員・職員のセンター全体で共通認識を持ち、年間を通して会員拡大キャンペーン「会員 1 人が 1 人を誘う運動」を実施する。
- (2) ホームページに会員の様々な活動状況を共有できるコンテンツを作成するとともに、ホームページを活用した潜在的入会希望者へのアプローチ方法を検討する。
- (3) 就業率だけでなく、就業以外のセンター事業に参加している会員も含めた活動率を広く周知し、センター事業の活性化を図る。

### 2 就業の場の確保

**契約金額 17 億 500 万円、契約件数 17,600 件、就業率 80.5%達成のため、情報収集並びに普及啓発に努め、多くの会員の就業の場の確保に努めます。**

- (1) 多くの会員が就業の機会を得られるよう、情報収集を強化し多様な職種の開拓に努める。
- (2) 会員講師による講座とセンター事業の紹介を合わせて行うことで普及啓発を図るとともに、独自事業の充実につなげる。
- (3) 就業に必要なスキルを身に付けるため、各種研修会を実施する。
- (4) 就業の場を確保するため、発注者の目線に立った情報の発信に努める。

### 3 安全・適正就業対策の推進

安全・安心して「働く」ため、安全教育の強化や適正就業に対し意識の向上となる情報提供に努め、安全・適正就業対策を推進します。

- (1) 除草・草刈安全マニュアルの新ルールを会員に浸透させ、事故の未然防止及び再発防止を図る。
- (2) 就業途上の事故を未然に防止するため、高齢者自転車交通安全講習会への参加を促進する。また、車両事故が多発する中、実践に沿った安全運転講習会を実施し、会員の交通事故防止に努める。
- (3) 適切な就業形態（請負・委任・派遣）の理解を深めるため、継続的な情報提供に努める。

### 4 運営体制の強化・充実

運営組織の充実を図るため、会員の自主的な活動を推進するとともに、魅力ある組織の構築を目指し、運営体制の強化・充実を図ります。

- (1) 発注者へのサービスの向上と職群班の更なる活性化に努めるため、受注から業務完了までの請負業務体制を整備し、組織の強化を図る。
- (2) 令和5年度を初年度とする第3次中期計画を策定するため、策定委員会を設置し、計画の検討に取り組む。
- (3) 地域社会に貢献するため、高齢者の社会参加意欲を共助に結びつける活動として、傾聴ボランティア「**あゆみ**」やシルバーライフサポート事業(外出支援)を推進するとともに、地域の子供達との世代間交流を目的としたふれあい教室事業を実施する。